

## 第 2 回 検討協議会の意見の分類

基本方針	基本方針の方向性	第 2 回検討協議会の意見
① 地域間連携を踏まえた市街地の活性化に関する事	伊賀地域における市街地と周辺部の役割を再確認し、市街地が果たすべき役割と、市内地域核との連携を再構築することにより、市街地の周遊性向上や、各地域への波及効果を含めた活性化の方向性を示す	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域間連携のために公共交通の充実は不可欠で、交通弱者対策も含めた交通施策が必要</li> <li>● 市街地だけでなく郡部でも賑わい創出に向けた個々の取り組みを行っており、「市街地⇒郡部」だけでなく「郡部⇒市街地」との相乗効果で高めあうべき</li> <li>● 伊賀の特性を活かすために、市全体で連携を考えられる核が芭蕉であり忍者</li> <li>● 芭蕉や忍者といったテーマに応じた“事業”による地域間連携の手法を検討中</li> </ul>
② 将来の社会動向や時間軸を見据えた都市構造における公共施設再配置と機能の配分に関する事	限られた財源や人口減少、高齢化社会の進展といった社会動向、国や県の支援制度の有効活用や、総合計画再生計画や公共施設最適化計画等に基づく中長期的な財政計画を踏まえ、市街地に必要な役割に基づく公共施設の再配置、機能配分等の方向性を示す 公共施設の再配置や機能配分については、コンパクトシティの理念に基づく都市機能の集約や、地域核を公共交通でネットワーク化することによる地域連携の方策も含めた方向性を示す	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再整備が必要な施設の個性や役割（できることとできないこと）を整理し、それぞれが協働しながらゾーニングや動線を考える</li> <li>● 市民の憩いの場、若者が集う場所が必要</li> <li>● 市街地にはたくさんの施設がすでに揃っているが、全体のコーディネートが必要、バラバラに機能しないように</li> <li>● ハイピア伊賀には一定の賑わいができているが、今後はそれをどう広げていくか</li> <li>● 10年、20年先の伊賀市を見据え、安心・安全のまちづくりに関する視点も必要で、下水道など基盤が整備されていることも賑わい創出には重要な要素</li> <li>● これまでは「空き施設や空地、空き家ができたから活用」と進めてきたが、今後は計画的に必要な場所に必要な機能を配置すべきで、ランドデザインはそのベースとなる</li> <li>● 施設の再配置を考える際、民間の土地も視野に入れて探してはどうか</li> <li>● 合併特例債の期限もあり、早急に対応するもの、4年～5年スパン、10年～20年スパンなどに分類して考えることが必要</li> <li>◇ 丸之内を中心としたエリアは伊賀市の文化が集積し、伊賀市を全国に発信できる拠点、余計な建物は造らず、ハード（箱物）よりソフト（人材）の確保・育成が重要</li> <li>◇ 伊賀市の知的文化水準の向上のためには図書館の整備が必要不可欠</li> <li>◇ 図書館という知的文化拠点を充実させることで、伊賀市の発展がみえてくるのではないかと</li> </ul>
③ 官民連携や積極的な民間活力の活用に関する事	官民が一体となり活性化に取り組むこと、観光客や市外からの流入者を受け入れる体制を整えることなど市全体が主体的に将来のまちづくりに向けて進む指針を示す	<ul style="list-style-type: none"> <li>● “住みたい”“住み続けたい”を実現するために、自然の魅力は十分にあるので、学ぶ、働く、育てる環境の充実が必要</li> <li>● 市街地における空き店舗対策が急務であるが、商圈が変わりインターネットによる購買が進む時代においては店舗の充実にとらわれず、空き店舗のシェアリングなど柔軟な対応も必要</li> <li>● スーパーやオヒコなどは地域のニーズが高い施設であり、ニーズに応じた施設の優先度を高めるべき</li> <li>● 住民が豊かに暮らせるまちづくりを目指し、まずそこに住む人がどうしたいかをしっかりと聞き取る必要がある、市街地の活性化には地元自治会、商店街の参加が不可欠</li> <li>● 現状伊賀市の物産が一堂に会する場所がだんじり会館しかないが、だんじり会館は物産販売所としては立地がよくないため、駅前に立地してはどうかという案がある</li> </ul>
④ 上記を踏まえた伊賀市の賑わい創出に関する事	上記の3項目を踏まえ、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標を実現するため、具体的な伊賀市の「賑わい創出」の方向性を示す	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民の住み心地（内向き）と観光（外向き）の融合が必要で、地域住民の住み心地のよさや郷土への愛が外部からの観光客などの満足度を高める</li> <li>● 観光だけでは長期的なビジョンは立てられないのではないかと</li> <li>● こと市街地に関してはたくさんの観光施設があるので、観光に特化した取り組みが必要ではないかと</li> <li>● 賑わいの創出に向け、「軸」「核」となるものをしっかりと中心に据える必要がある</li> <li>● 賑わい創出に向けた理念の構築は重要であるが、実践・実現可能な具体策も合わせて検討するべき</li> <li>● メディアの活用やインターネット、SNSを活用した情報発信など時代に即した仕掛けが必要</li> <li>● 賑わいを創出することにより目指すのは「定住者の増」であり、一定の支援策も必要</li> <li>◇ 単発的なイベントは一過性で負担は増すが賑わいは創出されない</li> <li>◇ 「いがぶら」や「まちかど博物館」を生かしたまち歩きと体験ができるまちとしてデザインすることで、図書館や芭蕉翁記念館の立地も考えられる</li> </ul>

●…協議会委員からの意見      ◇…意見用紙からの意見